

長畝ふるさと通信

【2011年11月号】

■ 11月の農作業

① 稲刈り後の田んぼの風景

稲刈りを終えた田んぼはとても静かです。お天気の良い日でも誰も田んぼに来ていません。集落の人の大半は稲刈りが終わると「おけさ柿」の収穫作業に入ります。これから春まで田んぼはゆっくりとした時間が流れていきます。



② 大豆・青豆の収穫作業



今年大豆の作付面積は約10ha。大豆はお天気の良い日でなければ刈り取りができないので、雨が多い11月はいつも苦戦します。写真のコンバインはクボタ(農機具メーカー)のデモ機でご覧のようにキャビン付きです。これなら粉塵が舞い上がっても目も喉も平気です。おまけにCDで音楽を聴きながら作業ができる優れもの。でもお値段は約870万円、とても買えません。当分は今のポンコツでホコリまみれで我慢です。

青豆は12月に選別作業をして「打ち豆」にします。今年からパッケージも一新して東京や大阪のお米屋さんにも販売して貰おうと思っています。見つけたら是非買って下さい。



③ おけさ柿の収穫

佐渡の農作物でお米に次いで生産量が高いのがこの「おけさ柿」です。種が無いのが特徴で、このままでは渋くて食べられませんが、アルコールやガスで脱渋するととっても甘い、ジューシーな果物です。また、皮を剥いて乾燥した「干し柿」や半熟の「アンポ柿」も人気です。



モリアオガエルが柿の葉っぱにぶら下がって眠っています。良く落ちないモンだと感心しきり。

■ トキが舞い降りる田んぼになりました



はやっぱり「綺麗」の一言。虹とのコントラストは感激ものです。

現在、佐渡には約50羽の野生復帰したトキがいます。一日も早く佐渡のどこでもトキが舞う風景を見られるようにしたいものです。長畝生産組合ではこれからもトキの野生復帰を全面的に応援していきます。

金北山の頂きが雪化粧する頃、田んぼにはトキたちが飛来して餌をついばむ風景が頻繁に見られるようになりました。多い日は10羽以上の群れが降り立つこともしばしば。トキは臆病な鳥なので、遠くから車窓ごしに観察しないと、人間の気配を感じるとすぐ飛び立ってしまいます。(サギは全然平気でいますけど…)

根気よく待っていると、一斉に飛び立ち～「とき色」といわれる美しい羽が広がって空を舞う姿



■ 収穫感謝祭 今年も盛大に開催！

11月26日、今年も収穫感謝祭を盛大に開催しました。年間玄米会員の中から東京・新潟より2組のゲストをお迎えして、老若男女約80人が集まってくれました。前日までぐずついた天気もウソのように晴れ渡り、絶好の「お遊び日より」となりました。



恒例の「もちつき大会」も世代交代し、若手が率先して杵をふるいました。ただ、そこへ行き着くまでの段取りはやはりベテランのご指導(指図?)がないとうまくないようで・・・みんなでああだ・こうだと賑やかにすすめます。つきたてのお餅はすぐにまるめて、あんころ餅にしてふるまわれました。普段は辛党のお父さん達もなぜかあんころ餅は酒の邪魔にはならないご様子です。

● 今回の目玉は羽茂の伝統芸能「つぶろさし」です。五穀豊穡・子孫繁栄を祈願する独特の出で立ち(特に股間からそそり立つモノ)でユーモラスな舞いを披露してくれました。これで来年は豊作間違いなし！



● 未来のエース達も続々登場

子供達が大勢参加してくれました。頼もしい未来のエース達です。お腹いっぱいごはんを食べて、笑って暮らせる明るい未来を共に創っていきたくと心から思います。

お酒を飲むのに忙しくて、取材になっていませんが、里芋たっぷりの100人豚汁は今年も健在、かあちゃん達の手作り「ごっつお」はさらにエスカレートして「これでもか」と楽しませてくれます。どうですか、みなさん。来年はぜひご参加下さい。今から予定を空けておいて下さい。お待ちしております！

